

**平成26年度未来経営戦略推進経費
(教学改革推進のためのシステム構築・職員育成に係る取組み) 採択事業**

法人名 光華女子学園	学校名 京都光華女子大学
------------	--------------

表題	「データに基づく学科・部署横断型の学生支援」の推進：集中的データ管理システムの活用と IR 担当職員の能力育成
-----------	--

取組みの概略

目的

本学では、入学前、在学中、卒業後の各ステージに対する支援を学科・部署横断的にマネジメントする「京都光華のエンロールメント」(EM)に取り組んでいる。そして、その横断的なマネジメントを進めるため、学内の共通言語としてデータを重視している(IR)。つまり、本学ではデータに基づいた教学改革(EMのためのIR)を推進している。データに基づいて現状分析を行うことで、改善に向けて、より適切な選択を行える可能性が増すとともに、論理的な説明につながる。

本事業では、データに基づいた教学改革をさらに推進させるため、集中的なデータ管理システムの活用と、IR担当職員の能力育成についての取組みを行う。

調査分析するデータの内容と活用方法(教学改革への反映状況)

上述の通り、本学ではデータに基づいて学内の現状を分析し、改善の方策を検討する際に活用している。図1に、本学におけるEMとIRの関係を示す。EMは入学前支援、在学中の支援、そして卒業後の支援で構成される。在学中の支援は、教育充実策、就学・修学支援、キャリア支援で構成される。EM施策(支援)の検討・実施においては、そこで必要な学生情報をIRが提供することとなる。

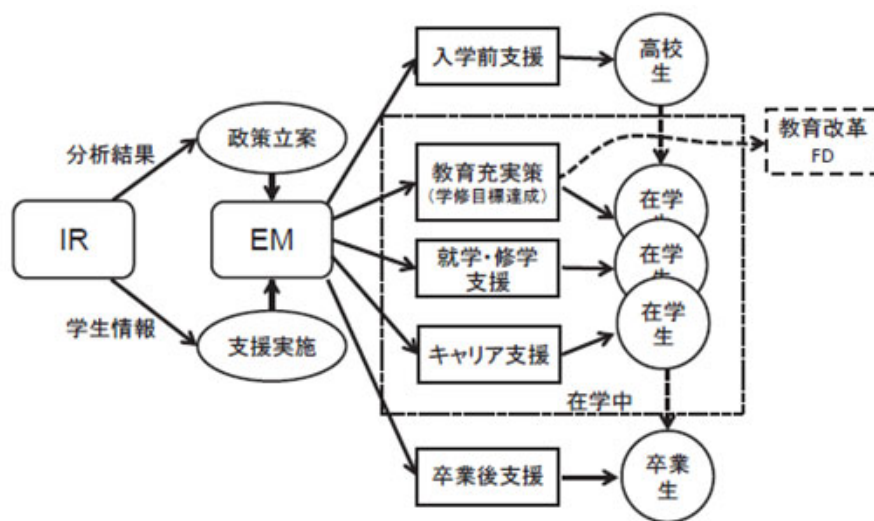


図1 京都光華女子大学におけるEMとIRの関係

EMの戦略立案と実行管理に必要なデータは、学生の多面的な情報である。図2に示すように、出席状況、成績、単位修得状況、就職および就職活動状況などの修学状況、学生の意識や態度、教職員との接触状況、志願・受験時のデータ、オープンキャンパスなどの入学前接触データなどの情報から構成される。それらを本学では「GAKUEN」・「光華navi」と称する情報システムの中で管理している。これがEMにおける「学生支援情報システム」の役割を果たし、EMの施策は、ここから得られる情報を基に検討・立案され、実施に移される。

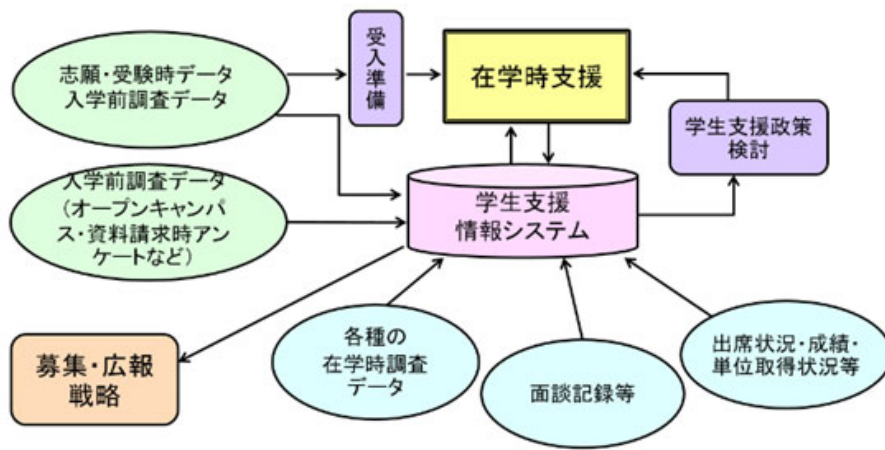


図2 EMの戦略立案と実行管理に関連するデータの構成

実施管理体制

EMは全学的な方針のもとに統一して進めることを基本としている。そのため、その実施体制は全学的な視点から編成され運営される必要がある。その要点は次のとおりである。

- ①組織としての意思決定ができ、特に学長のリーダーシップが十分に反映できること。
- ②適切な施策検討、戦略立案ができること。
- ③決定事項が確実に実施されること。
- ④必要な情報の収集・利用ができること。
- ⑤組織全体で情報共有が十分にできること。

以上について本学では、図3の体制で対応している。EM推進の中核となるのは、EM推進の専門部署であるEM・IR部、EM活動の審議を行うEM・IR会議、および全学的な情報共有とPDCAサイクルの円滑な推進を担うEM推進連絡会である。この中でEM・IR部とEM・IR会議は学長の直轄組織・会議としている。EM・IR部ではEMの戦略立案と調査分析を行うとともに、取組全体の統括（トータルマネジメント）の役割を担う。活動の大半は学科、委員会、事務部署で担当・実施され、EM・IR部は決定された事項について実施事項の伝達・依頼と実施状況のフォローを行う。これにより、決定された施策が確実に実施されることを目指している。

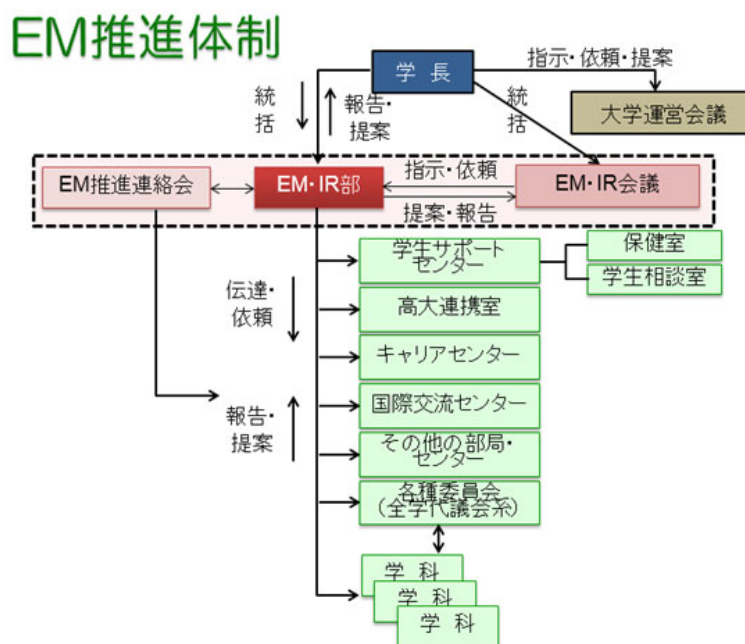


図3 EM推進体制

職員の能力向上

上述の通り、本学ではデータに基づいて教学改革を進めている。データを用いて何のためにどのような情報を抽出するかなどについては、学長統括の EM・IR 部で検討する。また、情報を抽出する段階では、EM・IR 部で承認された方向性に沿って IR の業務が行われる。

その IR の実作業を主に担当しているのは職員である。IR 業務を進めていくにあたっては、統計の知識、統計処理ソフトの技能、学内のデータベースシステムの知識、得られた情報をレポートにまとめる技能、レポートの内容を関係者に伝えるプレゼンテーションの技能など幅広い知識・技能が必要になる。また、本学では「EM のための IR」として IR を実施しているため、上記の知識・技能に加えて、IR を用いて改革していく対象である教学についての深い理解が必要となる。このように、本学において EM のための IR を実施していくにあたっては、職員に専門性が求められている状況にある。そこで、職員の専門性を高めるため、能力向上を図る取り組みを実施する。1 つ目は「統計知識の習得」、2 つ目は「IR・教学についての深い理解」である。

1 つ目の「統計知識の習得」については、本事業より以前に EM・IR 部の部員を対象として、統計の知識と統計処理ソフトの技能についての基礎習得のための研修会を実施している。ただし、研修会で習得した内容は基礎的な部分であったため、IR の業務をより効率的・効果的に進めていくためには、IR についての能力向上がこれまで以上に求められる。そこで、職員を学外の研修会や講座などに参加させることで、基礎的な知識・技能を確実なものにさせるとともに、高度な知識・技能を習得させる。

2 つ目の「IR・教学についての深い理解」については、IR・教学に関連する学会や研修会などに職員を参加させ、情報収集を行ってきている。また、本学の取り組み事例を職員が学外に発表することで多様な観点からの意見を得ている。そして、IR や教学に関連する書籍などの文献を通して、幅広い知見を得ている。このような学会・研修会、関連文献などからの情報は教職協働で EM のための IR を推進していくためには必須となる。本事業では、それらの情報を得るための取り組みを実施していく。